



アワーミュージアム

第25号 2004年7月10日発行

松永弾正久秀の阿波出自説の一考察

－松永薫・満野両家の資料による－

坂本 裕二 (特別寄稿)

まつながひさひで
松永久秀の出自については、阿波・京都の西部西岡・撰津の百姓出身とも言われ、どの説も決め手となる確実な史料がない。

では、なぜ阿波説が唱えられるのか、その資料の一端を紹介する。松永薫家(図1)が保管する寛文11年(1671)3月に淡水道が写し書いた25cm×280cmの和紙に墨書された「大和国信貴の城主松永弾正久秀由緒の事」(図2)によると、松永久秀の先祖・松永三左衛門久清は、「加賀国松永庄」の郷士であって木曾義仲の家来になり従軍する。寿永3年(1184)春、義仲近江の粟津の里で討ち死にする。君主を失った久清は郷里松永庄に帰る。それ以来、松永一族は武勇^{すた}廢れ商人となり暮らす。三百余年どこで何をしていたか不明であるが、この松永の後裔^{こうえい}三五左衛門清秀の嫡子松永与一久秀は、阿波国に下着して細川の家臣三好豊前守義賢(1526～62)の家来となった。松永久秀は功績により弾正と号し、大和国



図1 松永薫家(表門)

信貴山の城主となり、天正5年(1577)織田信長に討たれる。

その時、久秀の妻・阿波国阿波郡西林村三橋丹後守の娘呉竹は、讃岐国疋田津より阿波国日開谷岩野にたどりつく。その浪人阿波の孫三郎^かは彼の呉竹をいたわり養育す、月満ち男子を生む、孫三郎^{ここ}は此処の代官の器であると期待して、松永藤太秀清と名づけて庇護する。天正13年(1585)蜂須賀蓬庵は豊臣秀吉より阿波国を賜り、一国を平定して国内を巡視する。その時、藤太召し出され種々下問された。その結果、国境の押さえと御立置遊ばされ、その後政処を勤め、苗字帯刀を許される。これが久秀由緒の筋書きである。

久秀は阿波国に下着して「三好義賢の家来になり、阿波の三橋丹後守の娘呉竹を娶る」と書かれている。此等により阿波出自説が出たのではなからうか。

松永満野家(図3)の資料によると、「申上覚(21×110cm)

先祖松永清右衛門久業大和国信貴に住居仕申候信貴を立ち予州表に罷越それより当國当郡切幡村古田と申処へ罷越、此地を開き住居申候処、右田



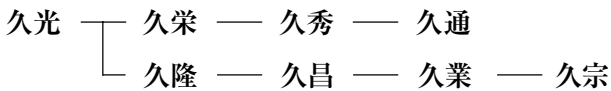
図2 大和信貴城主松永弾正久秀由緒書



図3 松永満野家 (上)長屋門 (下)母屋

地を下人共へ作らせ置き清右衛門は其後日開谷へ罷越浪人にて住居候、以下略」

同家にある系図には



久秀の親久栄，久栄の弟久隆，その久隆の子が久昌で久昌の子が久業である。この久業が大和国信貴より現・市場町切幡の古田に来て，農耕しておったが何等かの理由で日開谷に移転した。これが松永満野家の先祖であり久秀に対しては叔父の久隆の裔が久業である。久秀の子久通が松永薫家の先祖である。

現在日開谷地区に60家余，市場町全体には88家余の松永姓を名乗る家がある。そして，この各々の松永家は松永薫を政処系統，松永満野家を本家の筋と称し各筋目を大切に誇りとしている。

藩政時代にはどちらの松永も庄屋・組頭庄屋・山奉行をして栄えた。これらの理由で阿波説が出たのだろうかと思われる。

徳島県のトンボ相

よしだ かずお
吉田 一夫 (友の会会員)

—はじめに—

現在，日本国内でトンボは215種記録されています。これらの中には台風や季節風によって一時的に飛来してきたトンボも含まれており，実際に日本国内で生息しているのは200種程度とされています。

これらの内，徳島県には89種のトンボが記録されており，都道府県単位の種類を比較すると平均的な数字といったところです。

—研究史—

徳島県のトンボ相についての調査研究は1930年代の『昆虫界』に単発的な報告があります。1950年代にはいると中條道夫氏の四国のトンボ類として58種が報告されています。

その後，県立博物館の総合学術調査で平井氏がオオキトンボを，同調査で徳山豊氏がマダラナニワトンボを記録しています。その他，『阿波の自然探訪』や『徳島昆虫』等でタバサナエ，キイロヤマトンボ，ナニワトンボ，ナゴヤサナエ，オオカワトンボ，オオギンヤンマ，オオルリボシヤンマの報告が続き，これまで県内では89種のトンボが記録されています。

—絶滅種？—

これらのうち，ベッコウトンボ，コバネアオイトンボ，オグマサナエはここ30年ほど生息が確認されておりません。絶滅してしまった可能性が高いと思われます。オオキトンボもここ数年お目にかかったことがなく，残念に思っています。またマダラナニワトンボ，オオルリボシヤンマは1頭だけの記録で生息しているのか，偶然飛来したのかは不明です。

—飛来種—

飛来種とは台風や季節風によって飛来したトン



ナニワトンボ



ベッコウトンボ

ボのことを呼んでいます。オオギンヤンマ、ハネビロトンボ、ウスバキトンボがこれに当たります。オオギンヤンマは1998年に初めて記録されましたが、その後は記録されていません。ウスバキトンボは、お盆の頃沢山見られるので盆トンボとも呼ばれていますが、これも飛来種の一つです。日本では越冬できないと言われ、春に南方から飛来したトンボの次世代が増えているのです。夏場だと卵から成虫になるまで1ヶ月くらいと言われています。

—希少種—

徳島県内でも生息地が限られ、個体数が少ないものにネアカヨシヤンマ、ハネビロエゾトンボ、キイロヤマトンボ、モートンイトトンボ、オオイトトンボ等があげられます。これ以上生息地を狭めないよう保護する必要があります。

—減少種—

最近、減少しているトンボとしては、イトトン

ボ類があげられます。特にアジアイトトンボは、去年ついに見ることができませんでした。10年ほど前は田んぼのまわりでいっぱい見ることができたのに残念です。また、アカトンボの代表種であるアキアカネも減少しているように思われます。

その他、ナニワトンボ、アオヤンマも減少が著しいと思われます。

—北限・南限のトンボ—

徳島県が北限となっているトンボにミナミヤンマがいます。このトンボには地域変異があり、南の生息地に行くほど雌の羽の紋が濃くなる傾向が見られます。徳島のミナミヤンマは紋が薄く貴重なトンボです。

また南限となっているトンボにルリボシヤンマがいます。黒沢湿原や高地の池沼に生息しています。

—おわりに—

今後、記録されそうな種としては、飛来種であるタイリクアキアカネやスナアカネ、年々北進しているアオビタイトンボも期待できます。

新たな種が記録されるのは大歓迎ですが、ベッコウトンボのように見ようと思っても見られないトンボは作りたくないものです。日本人は稲作文化の始まった弥生時代からトンボとは仲良く接してきました。これからもトンボとの共存が出来る自然環境で生活していきたいものです。



コバネイトトンボ

友の会行事あんない



「八万町を探ろう」計画について

八万町を実際に歩きながら、その歴史や民俗について理解を深めると言うことで、4月24日に下調べに出かけました。古い地図と現在の地図を見比べながら、文化の森を出発して宮ノ谷から夷山えびすやまを回りました。大きな通りを車で走ることであっても細い道まで歩くことは初めてで、どこにどのような史跡があるのかワクワクしました。資料や地図を見るだけでも楽しいのですが、実際に歩いて史跡に立ち寄ってみると、もっと面白い発見がありました。その中で宮ノ谷の八幡神社でたくさんのお話を聞くことが出来ました。

八幡神社は「銅（かね）の鳥居」で知られ、幕末には藩主が郷土を集めて軍事訓練をしていたそうです。お祭りも盛大で相撲や競馬で大変にぎわったということでした。文化の森から八幡神社への途中、園瀬川の堤防でもこの神社の燈籠を見たのを思い出して、この地方の代表的な神社であった当時の様子が目に浮かびました。

八万町には他にも火の玉の言い伝えや、歴史的

に重要な史跡がまだまだあるようです。今回は下見だけでしたが、友の会行事では見学した史跡などを地図に書き込み、解説や写真を付け加えて形に残していくという楽しみもあります。ぜひ参加したいと思っています。

さじきまゆみ
棧敷真由美(友の会会員)

「八万町を探ろう」は、昨年度、有意義に終了した「園瀬川探検」の経験をもとに、園瀬川流域の歴史や民俗についてさらに理解を深めようと言う計画です。現在、学芸員の磯本さんならびに友の会幹事の石原さんの熱いご指導のもと、元気いっばいの事務局の多大なご協力を仰ぎつつ、担当者4名で準備しています。

可能であれば、伝説や民間信仰の聞き取りなども行い、ふれあいを楽しみながら歩いてみませんか？さらに翌週には地図に史跡や石造物を書き込んだり、写真に解説を付けて形に残し小冊子にしてみませんか？

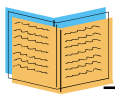
第1回は10月、八万町（夷山中心を予定）です。園瀬川探検に参加できなかった方もお待ちしております。

せきまゆこ
関 真由子(友の会会員)



八幡神社の銅（かね）の鳥居

友の会会員ひろば



絵図ウォークに参加して

5月16日(日)に15名の参加のもと、絵図と見くらべながら徳島城址をめぐる「絵図ウォーク」を開催しました。参加者のみなさんから寄せられた声です。

○生憎の雨でしたが、いろいろ珍しいことがわかり参考になりました。このようなセミナーはいい勉強になりますので期待しております。またよろしくお願いします。ありがとうございました。

○16日にはお世話になりました。普段何気なく通り過ぎる徳島公園ですが、江戸時代のころからの城の名残をあちこちに確認することが出来ました。特に現在架かっている橋もほぼ昔と同じ位置にあったことに感動しました。

○先日は雨模様の中、石原先生の御説明で徳島城周辺の散策と、くわしく解説をいただき、故郷徳島の昔を色々頭に刻み込み、懐かしさと思いが交錯いたしました。今後もこんな催しを出来るだけ多く開催していただき、孫たちにも文化を教えていきたいと思っています。まだまだ沢山の文化財が隠されていて、少しでも勉強させていただき参考にさせていただきます。天候が良ければもっと御説明を受けられたのに残念でした。またの機会を楽しみにしています。よろしくお願いします。

○雨の中での説明会、先生方は大変だったと存じます。教えて下さりたかったことの何分の1ではなかったのでは？と残念です。ぜひもう一度お教えいただきたいものです。今までボンヤリ通っていた中央公園を、石垣や木々に親しみを持って歩けるとおもいます。悪天候の中



町割りと城の関係は…。

ありがとうございました。

○お世話になりました。雨の中でもたくさんの参加者があり、歴史や徳島城への関心の高さを感じました。現在の姿と絵図とを見比べて歩くというのはとても興味深く、特に御殿を取り囲んでいた石垣が再現されたら面白いだろうなと思いました。今度時間があるときに、徳島城博物館にある城の模型とじっくり見比べてみたいと思いました。今度はぜひ、城山の上の部分案内していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○雨の中お世話になり、ありがとうございました。見学の後、質問だけでなく参加者のご意見も聞きたいものです。(長時間にならないよう、学芸員の方は大変だと思いますが)



雨のなか、熱心に説明を聞く。

友の会行事報告

自然体験
お米をつくってみよう



6月12日(土)、台風一過のさわやかな青空の下、友の会行事「お米を作ってみよう」で田植えが行われました。参加されたのは5家族11名。参加された方から一言いただきました。

みやたけま さこ
○宮武眞佐子(友の会会員)

本日は「お米を作ってみよう」の第1回でいろいろとお世話になりありがとうございました。

小学校2年の孫との初体験。ちょっときつい体験でしたが、孫共々楽しくすごさせていただきました。

自分たちの植えた稲が生長して、秋には収穫でき、それを食べる事が出来るなんて孫に対してこれ以上の「食育」はないと、この行事に参加できましたことを感謝しております。

いろいろとお世話をおかけすると思いますが、どうかよろしく願いいたします。本当に今日はお世話になりました。

○さとうみほ(友の会会員)

はじめてのたうえ、たのしかったです。おてんきもあつくなかってよかったです。おみずがとてもきれいで、おたまじゃくしとかいろいろいておどろきました。どじょうをみれなくて、くやしいです。つぎのときには、いねがどれくらいせいちょうしているかたのしみです。

さのいくよ ふみや
○佐野郁代・史哉(友の会会員)

先日は楽しい一日をありがとうございました。お米が大きくなるのを楽しみにしています。『自然農法』って環境にも良いだろうし、子どもたちも生物に親しみを持てるし、今度はアミやバケツも用意したいと楽しみにしています。



作業前のようす



担当者から説明をきく



草刈り



田植え

平成16年度総会の報告

4月25日(日)午後1時より、博物館3階の講座室において、友の会総会が開催されました。15年度の事業および決算報告、16年度の事業および予算案についての審議が行われました。

●平成16年度友の会行事(予定)

①徳島城絵図ウォーク

実施日：5月16日(日)

場 所：徳島城公園

②自然農-稲作体験-

実施日：6月12日(土)から毎月一回

場 所：小松島市新居見町

③地引き綱

実施日：8月1日(日)

場 所：阿南市中林

④初秋の研修会(バス研修)

実施日：9月11日(土)～12日(日)

目的地：愛知県江南市

⑤八万の昔を探ろう

実施日：10月17日、24日、31日(いずれも日)のうち2週連続

場 所：八万町周辺地域・博物館実習室

⑥初冬の研修会(バス研修)

実施日：11月28日(日)

目的地：京都府美山町

⑦和三盆糖製造見学と藍染め体験

実施日：1月22日(土)

場 所：上板町岡田製糖所、技の館

●平成16年度友の会事業計画

(1) 広報活動

博物館の広報印刷物を提供する。

(2) 展示解説・図録の増刷及び販売

16年度博物館企画展の図録を印刷し、販売する。

(3) 会報の原稿募集並びに発行

友の会会報『アワーミュージアム』No.25～27を発行配布する。

(4) 会員の募集

新しい会員募集案内を作成し、新会員を獲得する。配布先についても新規開拓をする。

(5) オリジナルグッズの開発

(6) 博物館普及行事へのボランティアとしての協力 広く会員に呼びかけ、普及行事のお手伝いをする。

●平成16年度友の会役員

会 長 行成正昭

副会長 和田健次・関 眞由子・

両角芳郎(博物館長)

幹 事 石原 侑・徳山 豊・多田精介・

檜原剛一・南部洋子・木下 覺・

澤 祥二郎・大杉洋子・石尾和仁

監 査 森本康滋・川下浩子

平成15年度決算および16年度予算

【収入】

項目	15年度予算	15年度決算	16年度予算
会費	520,000	459,000	485,000
行事参加負担金	320,000	435,000	661,000
図録売上等	709,600	1,267,794	600,000
雑収入	5,000	32,845	10,000
事務局整備積立金	380,000	344,696	350,000
前年度繰越金	20,039	20,039	171,825
利子	0	1	0
合計	1,954,639	2,559,375	2,277,825

【支出】

項目	15年度予算	15年度決算	16年度予算
図録印刷費等	450,000	1,072,972	358,500
オリジナルグッズ調査費	380,000	29,696	350,000
館利用促進費	85,000	55,900	65,000
行事費	480,000	708,422	979,800
通信費	440,000	399,795	420,000
事務局費	41,639	38,790	41,625
報償費	10,000	0	0
保険料	20,000	1,935	5,000
総合案内積立金	48,000	80,040	48,000
予備費	0	0	9,900
合計	1,954,639	2,387,550	2,277,825

新スタッフ紹介

●吉田 廣 (副館長)

阿波岩津の吊り橋下に、壮大な花崗岩板の歌碑が見える。江戸時代末期、隣接する杉尾神社の神官で国学者でもあった岩雲花香翁が詠める神代文字碑として浪漫を誘われる。



この歌は、阿比留文字で「波の間に い出て見えなむ つぬさはふ 岩津の淵の 底の鯰は」と刻まれているのだが、いろは歌を七文字ずつ区切^{とうかん}って沓冠読みをすると、咎なくて死すとか、イエスが浮かび上がるとか、この大鯰の歌も同様に何文字かに切って沓冠読みをすると・・・・・・古代阿波の秘史が隠されていそう。

友の会事務局を勤めさせていただきます。よろしくお引き立てくださいますよう。

●幸坂 敏行 (普及係長)

この3月までずっと小学校で勤めており、久しぶりに学校から外に出た私です。まだ自分の仕事^{仕事}が十分わからず、周りの人に迷惑をかけています。



今までの職業柄、人に尋ねられたり教えたりするのが好きで、「なんでもよく知っていますね。」と言われるのが大好きでした。でも、博物館に勤めるようになり自分には知らないことがいっぱいあることに気づきました。新しい知識がどんどん

増えていくことを楽しんでいる毎日です。友の会の方と話す機会が何度かありましたが、知識の豊富なことに驚きます。それも本や耳からの情報ではなく自分の足で得た知識が多いように思います。

最近の子どもの教育においても、「体験を通して学ぶ」事の素晴らしさが言われています。学校の中でいたのではできない経験をたくさんさせていただこうと思っています。よろしく。

★★★ 参加者募集！ ★★★

●「八万町を探ろう」 当会報の4頁で紹介しました、八万町の昔をさぐる行事にふるって御参加ください。秋の1日、八万町を散策しながら、わたしたちの身近な歴史にふれてみませんか。

○日 程

実施日 10月10日(日)、10月17日(日)

集合時間 午前9時

集合場所 文化の森総合公園 噴水の前

所要時間 午前9時～午後3時

(雨天のときは12時解散)

○準備するもの

筆記用具、カメラ、帽子、水筒、昼食

詳しくは9月のお知らせをご覧ください。

★★★★★★★★★★★★★★

《事務局からのお知らせ》

今年度は、吉田 廣(事務局長)・斉藤修一・幸坂敏行・古東謙司・大橋俊雄・茨木 靖・辻野泰之が担当です。よろしくお願ひします。

No.25

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



July
2004
Tokushima
Prefectural
Museum

第25号

2004年7月10日 発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197